

Title	五、ブレステド石器時代の文化(下)
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1938
Jtitle	史学 Vol.17, No.1 (1938. 8) ,p.122- 135
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	海外史壇紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19380800-0122

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

gart, Prolegomena to History; The Process of History; The Theory of History の中には社會科學としての歴史觀の發生を巧に論じてゐる。修史全般についての唯一の包括的歴史は Moritz Ritter, Die Entwicklung der Geschichtswissenschaft in den führenden Werken betrachtet. にあるけれども、不完全であり、且つリッターの判断も往々にして動搖してゐる。

五、フレステド石器時代の文化(下)

間崎万里譯

第二章 太古の食物生産者

四、新石器時代

二八、ナイル峡谷の河床には當初土壤を存しなかつたけれども、中石器時代の終までに、ナイル河は既にエチオピヤの高地から多量の黒土を下流に運搬し始めてゐた。毎季同山地に於ける夏の降

雨は上ナイルの水量を増したので、その河水は兩岸の上に高まり、この泥水はエジプトのナイル濠の底面に擴がつたので、黒い泥土の薄い層を残した。この沈澱物が遂に黒土からなる深い河床を作り、蜿蜒たるナイル河の兩側に左右に屈曲せる帶状線を形成した。今日に於ては黒土からなるこの河床は、河の兩側に於ける右の帶状線を含み、その幅十哩を超ゆることは稀である。かくして出来た保護された綠地に住める中石器時代の人類は、我等が新石器時代と唱へてゐる新時期に這入つたものと認めなければならないほどに、生活様式を改善することが出來た。

二九、前述の如く、長らくサハラ高原に住んでゐた獸類もまた食物と水を得んがために、ナイル河の峡谷に隠れ家を求めることが必要を知つた。この峡谷には沼地が多く、野禽の大きな群れにも野獸の大群にも歓迎せらるべきホームを與へた。

雨は上ナイルの水量を増したので、その河水は兩岸の上に高まり、この泥水はエジプトのナイル濠の底面に擴がつたので、黒い泥土の薄い層を残した。この沈澱物が遂に黒土からなる深い河床を作り、蜿蜒たるナイル河の兩側に左右に屈曲せる帶状線を形成した。今日に於ては黒土からなるこの河床は、河の兩側に於ける右の帶状線を含み、その幅十哩を超ゆることは稀である。かくして出来た保護された綠地に住める中石器時代の人類は、我等が新石器時代と唱へてゐる新時期に這入つたものと認めなければならないほどに、生活様式を改善することが出來た。

地中海の北側に於ける狩人はもう既に獸類、例へば象の如き大きな動物をも、陷阱に入れるなどを知つてゐた。彼方の低いナイル河の峡谷では、是等の動物にとりヨーロッパで享有した如き、或は曾て高原で見出した如き、大なる餘地を存しなかつた。その結果として、それ等の動物は人類と密接なる接觸を生ずる様になつた。かくして中石器時代の狩人は、それ等の全動物群をナイル河流域の崖にある深い袋地に逐ひ込んで、容易にこれを捕へることを知つた。是等の狩人は遂に斯様な袋地に一箇の入口だけを残して、柵を以て封鎖することを思ひつき、或は鳥獸を逐ひ込むために一箇の戸を附けた四面の柵圍を造ることをすら考案した。斯様にして圍ひ込まれた野生の鳥獸は『飼ひ置き』の頗る貴重な食糧源を形造り、何時でも用途に宛てられるのであつた。長年の時期を経た後、この囚はれた動物は人類を恐れることができ止み、漸

次人類と一緒に住むことを覚え、かくして我等の所謂家畜、即ち人類の家來となつた。

三〇、暫くの後ナイル峡谷の民族は、新たに他の永續的な食糧源を見出した。恐らく數千年前間、女子は或る種の野草の種子を探集することに習熟し、食用としてこれを摺り碎いたのであつたが、こゝに斯様な野草が栽培せられ、一層良く成長し一層多く食用種子を産出し得ることが發見せられた。かくて、曾ては野草に過ぎなかつた黍、大麥、小麥(註)の栽培と收穫が始まつた。

(註) 大麥とライ麥はいまだ知られてゐなかつた。それ等はずっと後に出現した。我等の耕作穀物の祖先即ち野草はパレスチナとエチオピヤ、即ち西アジヤと東アフリカに發見せられたのである。

三一、人類が畑に食物を耕作し、これを『貯へ』のため收穫し始めるに至つた後、彼等は初めて食物の『生産者』となつた。それ故彼等は『ホームで』食物を生産することが出來たので、狩人と

して出掛け、食用のために野獸を殺す必要の減じたことを知つた。それで遊動的狩獵生活が漸次變更せられ、諸家族の集團が定着して一處に住み、馴致された動物を飼養し、穀圃に給水することが出來た。遂に狩人の大部分は農民と家畜の飼育者となり、かくして農耕と動物飼育の時代が始まつた。これを我等は食物生産の時代と稱する。

三一、前述の如く、この新しい食物生産と定住

生活の時代に於て、人類は固定した郷土を持ち得る様になつた。この用途に宛つる器具はこの時もなほ石製、殊に燧石製であつたが、彼等は既に端を鋭くするために砥石を使用することを知つてゐた。この方法により彼等の石器は非常に改良せられたので、この時期を我等は新石器時代と稱する石器時代の他の時期と見做さなくてはならない。

彼等の作つたホームは當初は編條泥壁式のものに過ぎなかつた。是等のものは從来よりか一層よく

裝備せられてゐた。それは是等初期のナイル河住民は粘土が火熱を受けて硬くなることに氣附いてゐたからである。それ故、彼等は家庭用の夥多の土器の丼、皿、壺、瓶などを造ることが出來た。

同時に麻の如き野生の植物の有益なる纖維が發見せられ、女子は是等の植物を栽培して、纖維を紡いで絲を作り、この絲を織つて彼等の被服に用ゐる布を作ることを知つてゐた。

三二、以上は新石器時代のエジプト人が建てた

編條式の小屋からなる小さな村落址の痕跡が、爾來ナイル河によつて運搬せられた數呪の黒土層の下に隠されてゐたほど長い以前に起つたことである。それにも拘らず彼等の數個の村落址の乏しい痕跡がナイル河水の達する限界の上にあるほど高いところの地面に於て發見せられた。そこには穀物の收穫に用ゐる燧石製の刃のついた木製の鎌の破片や穀倉用の小さな圓い穴があり、この穴の中

に小量の穀物さへも發見せられた。是等は農耕について知られる最古の證據である。麻布片と土器片とがこれと一緒にあつた。これは今迄發見せられたこの種のもの、最古のものである。村落の住民は當時ナイル河水の達する限界の上にあつた砂漠の端にある黒土の縁邊に沿うて彼等の死體を埋めた。新石器時代の人類のは等の墓地には、第二十六圖（拙譯、古代文化史新版
再訂二九頁の第十一圖）に掲げてある後世のものに餘ほど似寄つた多くの墳墓を存してゐたに相違ない。しかしながら、新石器時代に屬する墓場は不幸にして今は黒土の下に深く埋没してゐるのでその殆んどすべてがなほ我等に知られてゐない。

三四、斯様な墓地の中で、最近發見せられたものに、その一墳墓の中に死體と一緒に埋めた所謂副葬品の中に銅製のピンがあつた。これは考古學的發掘に於て發見せられた最古の金屬具である。けだしこの銅製ピンは前五〇〇〇年より餘り後で

はあり得ないからである。最古の銅の鑛山の發見せられたシナイ半島に彷徨ひ込んだ際、初めて金属を發見したのであるに相違ないこのエジプト人の經路を想像して見ることは興味あることである。その附近に於て彼は地面に轉げてゐた銅鑛の片をもつて偶然にもその陣營の焚火を圍んだことがあつたであらう。木を燃した火の赤熱せる炭分が遂に火を圍うために周圍に積み上げた鑛石片を煅燒したことであらう。かくしてこの鑛石は鑛夫の所謂『還元された』のである。別言すれば金屬性の銅が鑛滓から吹き分けられたのである。このエジプト人は、翌朝灰燼を搔き廻して、その中に數個の燐爛たる金屬の小玉を見出したことであらう。我等は彼がこれを取上げて旭日に燐めくこの小玉を反轉し乍ら、嘆賞を禁じ得なかつた光景を想像し得る。この經驗が反覆せられるに及んで、彼は是等の不思議な燐めく小玉がその焚火の周邊

の礫石片から生じたものであることを發見したのである。

三五、この人は、それとは知らずに、新時代即ち金屬時代の黎明に蒼んでゐたのである。もしエジプトのこの彷徨者がこれを見得るものならば、彼が灰の中から取出した燐めく銅の小玉は、金屬製の建築物や、大鐵橋や幾千もの金屬製の機械のけたましい響を立ててゐる大工場や、澤山の機關車が轟音を立てゝ疾驅してゐる蜿蜒たる鋼鐵路など、將來の驚異すべき光景を彼に反映させたであらう。是等の近代世界の事物やそれ等の代表するところのものは、すべてこの放浪せるエジプト人がずつと長い以前のこの重大なる日に、初めて手にしたこの金屬の小玉がなかつたならば、決して起り得なかつた筈である。それよりも數千年前に火の發見があつて以來、人類はこの金屬の發見と比較し得るほど重要な地上事物の征服はなされ

なかつたのである。これは西紀前約五〇〇〇年より遅くないときに、換言すれば少くとも約七千年前に起つたことである。しかし銅製の道具と武器とが一般に使用せられるまでにはなほ數世紀を経過すべきであつた。この長い時期の間、さうして暫く後も、新石器時代の生活は恰も金屬が發見せられなかつたかのやうに繼續せられたのである。

三六、その間に、地中海北側の狩人は家畜、穀物、土器、磨製石器、麻布を所有することなく、依然として中石器時代の彼等の食物採集の生活を行つてゐた。氷は最後に北方に退却しつゝあつたので、氷の殘した記號は、地質學者をして氷が約九千年前にその現在の緯度に達したことを思はせるのである。それで、この點に於て地中海北側の中石器時代の人類は、漸次今日の如くなれる氣候の状態に這入つたのである。

三七、地中海のヨーロッパ側に於て、氷が最後

の退却をなしつゝあつた間に、また北アフリカの高原が續々乾燥しつゝあつた間に、他方北アフリカからの諸影響が中石器時代の終頃ヨーロッパの狩人に達し始めた。是等の影響は三つの通路を経由してヨーロッパに這入つた。當時なほアフリカとヨーロッパとを連結してゐた二箇の陸橋がジブラルタルとシリヤのところにあつた。北アフリ

カの狩人が、恐らく彼等の發明したらしい弓矢を携へ、又彼等が馴致して後ち人類の忠實なる友、即ち親しい飼犬となつた狼に似た動物を連れて、最初にこの陸橋を渡つたものゝ様である。その體質が明瞭にアフリカ系であることを示してゐる是等の狩人の遺體がイタリーのグリマルディーの洞窟内に發見せられた。ナイル峡谷の人々の中、他のものに比し一層放浪的の傾向を有する若干のものが後に至り北アフリカを横斷して彷徨し、この同じ陸橋を渡つてヨーロッパに這入つたことはあり

得べからざることではない。又彼等がその家畜を連れて行つたことも、非常にありさうなことである。この様にして磨製の石器類と共に小麥と大麥や麻布と土器やがヨーロッパに渡つたことは疑はないのであつて、全く同型同様式の石器類がヨーロッパにもスイスの湖村にも發見せられたのである。

三八、北アフリカとヨーロッパを連結した第三の通路はクリート島を經由する水路であつた。この大きな島はアフリカの海岸から約百八十哩に過ぎないのであるから、中途の停留所として役立ち、アフリカからヨーロッパへの地中海横断の航路を短縮した。サー・アーロン・エヴァンズはそのクリートの發掘に於て、昔のクリート諸王の宮殿址を掘り下げ、その下に家屋の壁を發見したが、その中には是等の家屋に住んでゐた新石器時代の人類によつて使用せられた磨製の石の斧があつた。夥

多の部屋の一室にはエジプトからの銅製の斧があつた。これはヨーロッパで發見された恐らく最古の金屬具であらう。この銅製の斧はエジプトの船舶がクリートに何を將來しつゝあつたか、この最古の金屬が如何様にしてヨーロッパに達したかを頗る明瞭に示すものである。

三九、ヨーロッパでは、新石器時代に於ける食

物生産者の初期の社會がその聚落を設けたのは、

肥沃なる地味と廣汎なる牧地を有する特に諸川及び水流の側であつた。この時期に於けるヨーロッパ諸河の流域の中最も重要なはドナウ河の流域であつた。ドナウ河の下流に於て、この流域は擴がり、今日の廣汎にして豊饒なるハンガリー平野となつてゐる。ドナウ河下流のこの地域は小アジアの方に擴がり、西アジヤの新石器時代の生活はこの地を經由して東ヨーロッパに入り牧畜と穀作を傳へた。益々大勢の人々が狩獵生活をして

てこの地に定住するに至つたので、ハンガリーの廣い穀圃と茫茫たる牧地とは、ヨーロッパ最初の大農業社會を扶養したものらしい。ドナウ河の農民から牧畜と農耕の生活がこの大河を溯つてヨーロッパの中心部に入った。この頃ハンガリーから西方に傳播した新石器時代の聚落址は、生活様式の大なる改善を示してゐる。

四〇、是等の聚落の最古のものが編條式の小屋

を作り始めてゐた間に、こゝに我等は改良せられた磨製の端を有する道具が後ち木造家屋の建造を可能ならしめたことを知るのである。新石器時代の職人の用具を驗するならば、近代の大工のそれの如く、殆んど完全な器具の目録を存したのである。斧の外、鑿、^{ナイフ}小刀、錐、鋸、砥石などが有り、多くは燧石製なるも往々その他の硬石から製つたものがあつた。又斧先を縛つて木製の柄を附け或

穿ち柄を挿込むことをすらも覚えた。今日發見される是等の道具は使用擦れのためにしばしば光澤を生じてゐる。

四一、斯様な石器を以てしては速かに良い仕事をなし得ないと想像することは誤りである。デンマークに於ける最近の實驗によるに、近代の一機械工からその鋼鐵製の斧を奪つて、その代はりに石製の斧を渡したのであるが、彼は石製器具の使用に慣れてゐなかつたにも拘らず、十時間の勞働

時間内に、厚味八吋ある二十六本の松の木を伐り仆して丸太の材木とすることが出來た。次いで、職工により石器を用ひて、板と材木を削つて、一軒の家を建てさせたのに、全工程が八十一日で成就した。それ故新石器時代の人類をして愉快な住居を建て、蠻人のそれよりか遙かに高度の文明に達せしめるることは全く可能なのである。

四二、ヨーロッパに於ける最古の木造家屋の最

も豊富なる遺跡はスイスに發見せられた。スイスの新石器時代の家族團體はその湖岸に沿つて長く連なつてゐる臺の上に木造家屋よりなる村落を建てた。是等の臺は地面に打込んだ棒杙によつて支へられた。斯様な村落即ち『杙上住居』の集團は普通『湖村』と呼ばれる。數個の場合に湖村は遂に發達して頗る大きなものとなつた。ヴァンゲンに於てはこの湖村を支へるために五萬本以上の杙が地面に打ち込まれた。

四三、湖村の住民は平和と繁榮の生活を送つた。彼等の家屋は愉快な住居であつて、木製の家具と手製の、換言すれば陶工轆轤を用ひずに製造した土器とを備へてゐた。湖村を瞰下してゐる山腹は大麥小麥や黍の畑で綠になつてゐた。この新しい食糧源は豊富なものであつた。ヴァンゲンの湖村址の湖底の處で發掘者により一百ブッシュル（約二十石）以上の穀物が發見せられた。穀作と並ん

で、湖村の住民の小さな麻の畑が今や山腹の上方にまで擴がつて行つた。女子は戸口で麻を紡いでゐた。彼等の祖先の疎末な革衣は廢れて麻布の衣服となつた。

四四、初には誰もこの小麥、大麥或は麻の畑を一人で所有したものはなかつた。しかるに暫くの後各家族は漸次別個の畑を耕作する權利を得、最後にはこれに對する要求權を起すやうになつた。

かくして土地の所有が起つた。人々の今後の生活に於てこれが頻々たる紛擾の原因となつた。これよりして富めるものと貧しきものとの間に於ける長い鬭争が生じた。この土地所有の制度は村落の内外に於ける定住の農業生活を一層確立するに至つた。その故は、村人達が作物を栽培して成熟したとき、その實を蒐集するのには、女子が栽培のために土地に鋤入をしてゐる小さな畑の附近に在留することを必要としたからである。

四五、他面に於て、草地に於て養はれる草食獸の所有は定住の生活を營まざる別種の人々を造つた。何處に於ても放牧地は常時一ヶ處に家畜を養ひ得るほど豊富ではなかつた。時々牧者は他の何處かに放牧地を求めなければならなかつた。かくして彼等は何處たりともその家畜に食物を供給する處に放牧せんがために、その妻子を移動させつゝ、その畜群を逐つて、放浪の生活を行ふことになつた。牧者牧羊者よりなれる斯様な民族を我等は『遊牧民』と稱する。この遊牧民は今日もなお存在するのである。農民がその肥沃なる農地に定住を續けてゐた間に、遊牧民はドナウ河から東して黒海の北側に沿うて擴がり、それより遠くアジヤに入り込める草地を保有した。

四六、かくして穀物と家畜は並存せる二箇の生活様式を造つた。定住して穀作をする農業生活と遊動して牧畜を行ふ遊牧生活とがこれである。こ

の二種の民族を理解することは重要である。何となれば、草地は『非定住の』夥多の住民の郷土となつたからである。斯様な草地はしばしば遊牧民を以て充満する様になり、彼等は次いで都市と農村に横溢し、これを壓倒したのである。ヨーロッパが東方の草地から入來する遊牧民の群により幾回となく侵入された次第は後述する所があらう。

四七、新石器時代の『定住の』社會は遂に壞れ易い木造家屋や編條式の小屋に優るところの或るものをしてその背後に遺し始めた。この時期の終頃、大聚落の一層有力なる首領達は、大きな石塊となる墳墓を造ることを覺えた。是等の墳墓は今でも地中海からスペインを巡り、南部スカンヂナヴィヤの海岸に至るまで、ヨーロッパの西海岸の縁邊に見出される。現在デンマークのゼーランドの島だけに、この時代の石造墳墓が三千四百を下らず、その中にはかなり大きなのがある。フランス

にはその堂々たる大いさのものが隨分澤山ある。イギリスも同様である。是等の建造物中の若干のものに於ては巨大なる石塊が大部分荒削のまゝになつてゐる。しかもししこれが削られた場合には石鑿で切られたものであらう。斯様な構築物は石造即ち滑かな切石を漆喰で附着させたものではない。建築物とは言へないものである。石造建築物はいまだヨーロッパには存しなかつた。

四八、今なほ殘存してゐる新石器時代の是等記念物を眺むれば、ヨーロッパ最古の都市の存在が明かになる。何となれば石造の墳墓群の附近には何れもこの墳墓を造つた人々が住んでゐたところの都邑があつたからで、是等都邑の或る者の遺跡が發見せられた。それ等の示すところによれば、人々は多數一緒に住んで、大規模に共同に作業することを學びつゝあつた。斯様な都邑の土壘の築造や、ヴァンゲンに於ける湖村を支へるための五

萬本の杙の打込みや、或は酋長の墳墓建設のための巨石塊の運搬には、人々を統御する力や人々を巧者に管理することを必要とした。是等の作業に於て、首領の統治下にある政府の發端を見る。斯様な政府は國家と稱し得べく、何れも首領を戴き周圍の田圃と共に土壘を圍らした都邑からなる多くの小國家が、新石器時代のヨーロッパに發達した。斯様な發端からして後ち民族國家が成長したのである。

四九、更に石造構築物は新石器時代の都邑の生活に頗る興味ある概觀を與へる。その或る者は全社會が祭日に都邑を立ち出で、イギリスのストーンヘンジにある大環狀列石の如き場處に進行したことを見唆する。この地で彼等は環狀列石内に埋葬してある死せる酋長を祀るために運動競技を行つたものであることが考へられてゐた。恐らく祭禮の行列が巨石で區劃されてゐる長い大通を進行

したことであらう。今日見捨てられてゐる沈黙のそれ等は近代の農民の畠を横ぎつて數哩の間に瓦り、人々の忘れられてゐた享樂や、古代の習慣や石器時代のヨーロッパの消滅した民族によつて久しく尊崇された宗教などを想起させる。

五〇、斯様な記念物は新石器時代の人々の休み時間に於ける遺跡であると共に、他の遺跡は作業時に於ける彼等のそれを我等に傳へてゐる。人々は定業につき始めてゐた。例へば或る人々は恐らく木工であつた。さうして他の者は陶工であつた更に他の者は既に鑛夫となつてゐた。是等初期の鑛夫はその石器製作用の燧石の最も見事な石床に到達せんがために、土中に深い穴を穿つたのである。イギリスのブランドンに於ける古代の燧石鑛山の坑道の内に於て、鹿角製の磨滅した八十個の鶴嘴が近時發見せられた。一箇所の天井が陥沒し、坑道を切斷してゐた。この墜落した岩石の後

るで、考古學者は更に白聖の粉末の外被を被つた二個の鹿角製の鶴嘴を發見したが、これには數千年前に勞働者が最後に是等の道具を下ろしたまゝに残されてゐた鑛夫の指紋がなほ見られたのである。

五一、村落間の取引關係が既に存してゐた。斯様な商業の發端は折々事物を遠方に運搬した。そ

の著しい一例は諸種の特に精巧なフランス製の燧石具であつて、今日そのヨーロッパの諸處に撒布してゐるのが發見せられ、その色合で判別せられることがある。バルト海沿岸で採集された琥珀は既に轉々して南方地中海にまで運ばれてゐる。ヨーロッパ周邊の島嶼に發見せられた石製器具により、この時期の人々が是等の島嶼で生活してゐたことが分る。さうして彼等は、そこへ彼等を運搬し得るほど丈夫な船を作つてゐたに相違ない。湖畔住民の刳舟の數隻が湖底の棒杙の間から發見せ

られたが、『帆』を附けた船はまだヨーロッパでは發明されてゐなかつた。斯様な時代の賣買はもちらん非常に簡単なものであつたに相違ない。金屬も貨幣も存しなかつた。賣買は器物の交換に過ぎないものであつた。全ヨーロッパには文字がなかつた。又ヨーロッパ本土の住民は書法を發明したこともなかつた。

五二、しかし是等最古の村落間の交通は何時も

平和であるとは限らなかつた。斯様な都邑を保護すべく取り囲んでゐた土壘と木柵は、是等の民が酋長の戰を報ずる角笛により敵を擊退すべくしばゞ召集されたに相違ないことを示してゐる。ヨーロッパ最古のは等の戰爭の殘酷な遺跡が今ながら残存してゐる。スエーデンに於けるこの時代の墳墓から出土した頭蓋骨には燧石製の礫が今でもなほ眼孔にささつてゐたし、他方フランスでは一個以上の入骨に燧石製の礫が深く打ち込まれてゐる

のが發見せられた。スコットランドの積石の中に發見せられた石棺には大きな男の身體が這入つてゐて、その片腕は石斧の一擊で殆んど肩から切斷せられてゐた。石斧の刃から缺け落ちた石片が深い大傷を負つた膊骨に今も殘つてゐた。

五三、新石器時代の終末に近い西紀前三千年の頃、地中海の北側に於ける新石器時代の人類の生活は以上の如きものであつた。これよりすつと以前に、ジブラルタルとシリヤにあつた陸橋の一部が水底に陥没し、ヨーロッパは今日ある如くアフリカから分離した。地中海の北側に於ける新石器時代の村落は最早やアフリカ及びナイル河流域と直接陸地による連絡がなくなつた。かくして家畜と穀物を恐らく運搬したるべき舊き通路は、彼等に閉鎖せられ、エジプトからの發明品は最早や是等の通路によつては彼等のところに達せられなくなつた。しかるにクリート經由の海路は終始開

かれてゐて、我等が後に研究すべき西アジヤの文明はエーゲ海を横ぎり、黒海を廻り、殊に前述の如く、ドナウ河の流域を溯つてヨーロッパに入り込みつゝあつた。それにも拘らず、ヨーロッパの石器時代の人類は狩獵生活からその穀圃の近傍及び牧場に於ける定住生活に變つた後、殆んど或は全く進歩といふものがなかつた。彼等にはなほ實務と政治の記錄を作るべき『文字』がなかつた。彼等にはなほ道具を作るための、又産業や製造業を發達せしめるための『金屬』(註)がなかつた。彼等にはまた通商を行ふべき『帆船』もなかつた。

是等の事物をもたない彼等はこれ以上前進するこゝが出來なかつた。その間に地中海の他の側なるエジプトと西アジヤの地に於て、即ち我等の所謂今日の近東の地に於て、是等及びその他多くの文明の所有物が發見せられ、或は發明せられつゝあつた。

(註) 金屬は西紀前三〇〇〇年頃東南部ヨーロッパに移入せられ、静かな波の様に漸次ヨーロッパを西方に又北方に移動して行つた。金屬は前二〇〇〇年頃まではブリテンに達しなかつた様である。それ故、本書では石器時代のヨーロッパをとく處で（ストーンヘンジの如き）西ヨーロッパの巨石記念物を説くこととしたのであるが、是等記念物は東南部ヨーロッパが金屬を受容してからずつと後なるも、金屬が西ヨーロッパで一般に使用せられる以前に建設せられたものである。

五四、我等はヨーロッパを去つて古代近東の物語を追及するに方り、今まで追跡し來つた人類が石器の製作を始めて以來、數十萬年の間地中海の全周邊に於て進行しつゝあつた人類の『先史時代』の進歩を追想してみよう。前四〇〇〇年以前に源を發し、前四〇〇〇年から前三〇〇〇年に至る一千年の間、近東の地に於て、人類は『歴史時代』の始を形成する高度の文明を徐々に建設しつゝあ

つた。それ故近東の地に始まつたこの文明の年齢は五千歳乃至六千歳である。その地に於て文明は久しく榮え、偉大な、優勢なる民族を作つたが、他方ヨーロッパに於ける新石器時代の人類は依然として金屬も文字も持たぬ生活をつゞけてゐた。近東から是等の事物が徐々に傳來するに及んで、

平時及び戰時に於ける文明の霸權は徐々にヨーロッパに移つた。我等はこゝに眼を轉じて、漸次近東の地に出現しつゝあつたところの金屬を有し、政府を有し、文字や巨船やその他幾多の文明の創造物を有する文明を、考察しようとするのであるから、我等が文明を近東からヨーロッパへと追跡するにつれ、文明の後ちの運動は、徐々に我等を東から西へと運んで行くのを知るであらう。

(以下略)